

発表項目 (行事名)	先天性代謝異常等検査に係る対象疾患の拡大について	
概要	道では、疾病の早期発見・早期治療を目的として、全ての子どもに対し、先天性代謝異常等の26疾患を対象とした、無償検査を実施しています。 今年度、新たに追加する2疾患について、検査機関や産科医療機関等の体制整備を進め、9月1日から公費負担による無償検査を開始することといたしましたのでお知らせします。 1 先天性代謝異常等検査（新生児マススクリーニング検査） 生後4～6日目の新生児からごく少量の採血を行い、先天性代謝異常等の早期発見・早期治療を行うことで、疾患の発症や障がいの発生を予防するものです。 2 追加2疾患 (1) 重症複合免疫不全症（SCID） 免疫細胞の機能不全により免疫力が低下し、出生直後から重篤な感染症を繰り返す疾患で、5万人あたり1人の割合で生まれるとされています。 (https://www.sma-rt.org/sma.html) (2) 脊髄性筋萎縮症（SMA） 脊髄の運動神経細胞の異常のため、筋力低下、歩行障害や呼吸障害をきたす遺伝子疾患で、2万人あたり1人の割合で生まれるとされています。 (https://pid-nbs.jp/scid.html) ※ 近年、治療薬の開発等により早期治療の効果が認められている疾患です。詳しくは各ホームページをご覧ください。 3 検査開始 令和7年9月1日(令和7年9月1日以降に出生した新生児) 4 検査費用 検査費用は公費負担（無料）です。 5 参考 (1) 国が先天性代謝異常等検査の対象疾患の拡大に向けて、2疾患を対象とした実証事業を行っており、道ではこの事業を活用して実施するものです。 (2) 札幌市内の新生児を対象に同事業を行う札幌市においても同様に開始されます。	
報道（取材） に当たって のお願い		
他のクラブ との関係	同時配付 同時レク	(場所)
担当 (連絡先)	保健福祉部子ども政策局子ども政策企画課（担当者：浅利） TEL ダイヤルイン 011-206-6343 内線25-757	

